

5 自己点検評価シート3

大項目 教育委員会が管理執行を教育長に委任する事務
 中項目 政策:生涯学習ネットワークの整備充実
 施策:生涯学習システムの拡充

担当課:生涯学習課

| 小項目 | 実績 | 評点 | 点検評価 |
|------------|--|-----|---|
| 公民館運営管理事業 | 1,510千円 ・公民館館長・主事が主体となって各地区(6地区)ごとにおいて生涯学習等に関する公民館事業(教室、講演会、講座等)を実施した。また、豊文化教室(指定管理施設)の維持管理に努め、常に市民が利用するための場を提供した。 各地区事業開催延べ18事業実施、延べ参加者数5,435人 ・豊文化教室指定管理委託料(160千円、利用者1,187人) ・市内の中央公民館6館、分館3館での事業運営経費 公民館運営審議会委員(40人)報酬 367千円 館長・分館長・主事(52人)報償 720千円 | 2.8 | 各地区の運営にバラつきがあるので、方向性を示していく必要あり。 |
| 生涯学習講座拡充事業 | 6,147千円 ・市民がいつでも自由に学習機会を選択し、学ぶことができるように様々な生涯学習講座(79講座)を開催した。 各種講座開催 延べ参加者数 2,455人(大人1,878人、子供577人) ・親子の教室:陶芸教室・ケーキ作り教室・星空観望会等 ・教養講座:山梨県立大学連携講座 ・趣味の講座:春、秋の自然観察教室・寄せ植え作り教室・キムチ作り教室等 ・映画鑑賞会:夏休み子ども映画会・春の映画鑑賞会 ・生涯学習事業を推進するための社会教育委員(20人)報酬255千円、社会教育指導員(1人)報酬等1,347千円 ・社会教育団体(各地区地域団体、女性団体)の生涯学習活動として補助金を交付し、地域の文化芸術活動の意識高揚を図った。 *社会教育団体 H21年度末47団体 | 3.4 | 生涯学習講座は、内容の充実と多様性を工夫し、「いつでも」「どこでも」「誰でも」学ぶことのできる学習機会と場を提供し、市民の学習ニーズに応えることができた。 |

中項目 政策:生涯学習ネットワークの整備充実
 施策:生涯学習システムの拡充

担当課:市立図書館

| 小項目 | 実績 | 評点 | 点検評価 |
|--------------------|---|-----|--|
| 図書館活動による生涯学習支援提供事業 | <p>548千円 市民が自主的な学習活動ができるよう、講演会や各種講座を開催した。 講演会(天野祐吉氏)203人、教養講座「文章入門」(2回)延べ32人、農業講座20人、環境講座9人、朗読入門講座(5回)延べ43人、読み聞かせ講座(3回)延べ47人、福祉講座(15人)の参加者があった。今年度は、櫛形図書館開館10周年記念イベントや名作映画会「おくりびと」(2回延べ610人)を行った。また、子どもを対象とした手作り絵本講座、子ども読書まつり、夏休み人形劇、読書フェスタ、工作教室、科学実験あそび、子ども映画会、エコ工作等には、延べ1,865人の参加者があった。 講演会は例年に比べ参加者が少なかった。各館の特色ある講座については、どの講座も多少ではあるが参加者が増えている。これからも、講座の内容を検討し、多くの方が参加できるように実施していきたい。また、広報や図書館のホームページ、ポスター等により市民に周知できるように努めていきたい。</p> | 3.8 | <p>各種講座、講演会等の開催を通して、市民の多様な学習ニーズに対応した情報提供を行っている。参加者からも好評で、事業の周知についても工夫している。 講座受講をきっかけにボランティアの輪が広がっており、また、講座の内容も向上している。</p> |
| ブックスタート事業 | <p>910千円 南アルプス市で生まれたすべての赤ちゃんに、健康増進課で実施している4ヶ月乳児健診の会場で、ミニおはなし会(てぶくろ人形・絵本の読み聞かせ・わらべうた)を行い、絵本とおおすすめ本の小冊子、図書館の案内等の入ったブックスタートバックを手渡している。絵本の読み聞かせが、赤ちゃんの言葉と心の成長に欠かせないものであり、保護者にとっても心安らく楽しいひとときであることを伝え、家庭における読み聞かせや図書館利用を勧めている。 年間24回実施 対象乳児数629人(平成21年1月から12月生まれの乳児)</p> | 3.4 | <p>保護者に読書活動及び図書館利用に対する興味、関心、意欲を喚起することができた。 成果は大きい。</p> |
| 子どもの読書活動推進計画推進事業 | <p>180千円 子どもの読書活動推進協議会においては会議を2回開催した。会議の中で、これからの読書環境の整備をすすめていくためには子どもたちの実態を把握する必要があり、子どもの読書活動や読書環境について調査を行うことになった。調査の実施を平成22年度当初とし、調査対象や内容、方法などの検討を行った。 図書館としての活動は、幼児と保護者を対象にしたおはなし会(2,002人)、乳幼児と保護者を対象にしたおはなし会0.1.2.(1,668人)を全館で定期的に実施している。おはなし会出前サービスとして、司書が保育園に出向きおはなし会を行っている。今年度は子育て支援課と連携し、保育所の図書購入時の参考に図書リストの一覧を提示した。また、子どもたちと一番身近に接している保育士を対象にした読み聞かせの講座を開き、多くの保育士が参加された。</p> | 3.4 | <p>おはなし会は、子どもたちが小さいときから本に親しみ、本の楽しさを知り、読書意欲を育てる活動として成果を上げている。 活動主体を育てる活動であり、今後もこの事業は続ける必要あり。</p> |

| 中項目 | 政策:生涯学習ネットワークの整備充実 施策:生涯学習拠点の整備充実 | 担当課:生涯学習課 | |
|------------------|--|-----------|---------------------------------|
| 小項目 | 実績 | 評点 | 点検評価 |
| 生涯学習施設管理事業 | 75,517千円 ・市の生涯学習を推進していくため、積極的に指定管理者制度の導入を図り、生涯学習施設の効率的な運用を推進した。また、施設の維持管理に努め、常に市民が利用し生涯学習の場を提供した。 八田高度農業情報センター(19,355千円、15,623人) 若草生涯学習センター(11,308千円、71,416人) 櫛形生涯学習センター(25,552千円、29,861人) 甲西農村環境改善センター(9,723千円、28,678人) 櫛形北地区農村環境改善センター(2,640千円、18,887人) 櫛形西地区農村環境改善センター(2,657千円、10,690人) 働く婦人の家(4,282千円、35,813人) | 3 | 農村環境改善センターの運営・管理については改善を図る必要あり。 |
| 生涯学習施設(直営管理)管理事業 | 10,443千円 ・市民が自主的な生涯学習等の講座(集会)を開催できるように施設の場を提供した。また施設維持管理に努め、市民がいつでもどこでも必要なときに生涯学習が行える環境を整えた。 白根中央公民館(旧白根はーとふるセンター)(8,358千円、12,110人) 白根コミュニティー館(826千円、5,118人) 芦安高齢者コミュニティーセンター(285千円、253人) ふるさと天文館(974千円、415人) | 3 | 天文館運営の努力は成果として表れている。 |

| 中項目 | 政策:生涯学習ネットワークの整備充実 施策:生涯学習拠点の整備充実 | 担当課:市立図書館 | |
|-----------|--|-----------|---|
| 小項目 | 実績 | 評点 | 点検評価 |
| 図書館資料充実事業 | 20,000千円 市民の学習要求の多様化・高度化に伴い、最新の資料や情報を整備し、資料提供によって市民の学習意欲の喚起や読書の普及を図った。 図書購入冊数11,751冊(蔵書冊数294,430冊) 視聴覚資料購入数133点(蔵書点数7,318点) 市民一人当たりの資料数4.13冊 館外貸出冊数460,893冊(昨年度より9,781冊の減、市民一人当たり6.31冊の貸出冊数) 貸出冊数の減は、新型インフルエンザの流行や健康センター建設により白根桃源図書館の駐車場が使えなかったことなどによる来館者の減少によるものと思われる。 新鮮で魅力ある情報を市民に提供できるよう、各館の職員全員で資料を選定し、週1回担当者による選書会議で検討した上で、地元書店組合から購入している。市内図書館の資料が、幅広い蔵書内容になるよう努めている。 | 3.2 | 現状を総合的に判断する中で、図書、資料等の購入を工夫し、蔵書内容の充実を図り、市民の学習ニーズに応えられるよう、情報収集に努めている。 |

| 小項目 | 実績 | 評点 | 点検評価 |
|--------------------|--|-----|---|
| 市立図書館と地域のネットワーク化事業 | <p>12,396千円</p> <p>利用者は1枚の利用カードで全館から貸出、返却、予約等ができる。また、携帯電話や自宅のパソコンから図書館のホームページにアクセスし、資料の検索や予約、新しい情報を得ることができるよう、図書館ネットワークシステムの整備をおこなっている。</p> <p>今年度は、利用者からの質問や調査事項に応じたレファレンスの事例を32件追加し公開した。図書館ホームページからの資料予約数5,353件。おすすめの本の紹介を30回実施した。メールマガジン登録者に、司書のおすすめ本や図書館のお得情報、地域の情報などを載せたメールマガジンを毎月1回送信した。メールマガジン登録件数189件(平成22年3月31日現在)となった。</p> <p>市内図書館に返却された資料(図書・雑誌)や予約資料は、メール便によって各館に配送されている。市役所メール便が回らない土曜日、日曜日のいずれかの1日を、図書館独自で回り、資料を配送している。回送数15,259冊と年々数が多くなっていることから、複数の図書館を利用している利用者が増えていることがわかる。図書館ホームページからの資料予約数も予約数全体の28.5%を占めている。</p> | 3.8 | <p>ネットワーク化は、市民の図書館の利活用という面で、情報発信の拠点としての役割を果たしている。</p> <p>職員の知識、技能の向上についても更に努力して欲しい。</p> |
| 市立図書館施設充実事業 | <p>403千円</p> <p>甲西図書館の返却ボックス(ブックリターンポスト)と白根桃源図書館のパンフレットスタンドを購入した。甲西にあった返却ボックスは芦安に移し使用している。</p> <p>白根桃源図書館が閉架書庫として使用していた中央公民館が商工会となり、旧商工会が白根地区の中央公民館になったため、資料を移動し中央公民館の一室を閉架書庫とした。</p> <p>各図書館とも蔵書収容スペースが少ないため、収容冊数に限界がある。特に閉架書庫が手狭になってきており、保存スペースの確保が必要となってきている。</p> | 2.8 | |

中項目 政策：学校教育の充実
 施策：次代を担う人づくりの推進

担当課：教育総務課

| 小項目 | 実績 | 評点 | 点検評価 |
|----------------------|--|-----|--|
| 芦安教職員住宅維持管理事業 | 0千円 芦安地区小中学校に赴任する教職員の居住施設として、昭和61、63、平成3年度に「へき地等小・中学校教員住宅建築費県補助金」を受けて建設した3棟12部屋の維持管理を行っている。 現在は、制度も変わり居住する教職員がいないため、事務事業評価により閉鎖しているが、用途変更等も視野に入れ、今後の処分を検討している。 | 2.8 | 早急に方向性を検討し、対応する必要がある。 |
| 小学校・中学校教育系パソコン維持管理事業 | 5,601千円 新学習指導要領(h14～)に基づき、情報教育を充実するために、全ての教室で児童及び教員がインターネットを活用できる環境を整備している。 また、平成17年度に「南アルプス市教育系パソコン整備計画」を策定し、小中学校間で統一した整備を実施しており、維持管理についても、市内の教育用パソコン端末機器等を一括して保守管理することで、経費の軽減を図っている。 ・教育用パソコンシステム保守業務 ・教育系ネットワーク保守業務 ・教育用パソコン修繕業務 | 3.8 | |
| 学校給食一般管理事業 | 2016千円 ・学校給食費の徴収事務を行った。 ・毎月口座振替不能者には未納通知を学校を通じて送付、折に触れ納付の勧告も行ってもらっている。不況により前年度は99.59%だった収納率が98.73%になってしまった。 ・平成22年度より給食賦課徴収業務が、業務系システムに移行し収納業務が市収納業務に一元化され簡略化された。 | 3 | 教育的配慮をしながら公平性という観点からも給食費の収納にあたりたい。 収納率向上のため学校との連携を強化していく。 特に、経済的に支払い能力があるのに滞納する保護者への対応が課題。 |
| 学校給食助成事業 | 15,154千円 ・少子化対策、子育て支援を目的として、義務教育課程の小中学校等に在籍する児童生徒が3人以上の世帯に対し3人目以降の児童生徒の学校給食費を助成する事業で、学校給食費完納者に対して年度単位で助成する。 ・対象者343人のところ325人に支給し94.7%の助成率。 ・上位目的の少子化対策の成果が図れず、継続すべき事業か検討段階にきている。 | 3.4 | 対象者には喜ばれているが、所得制限が無いことなど、課題もあり見直しの時期ともいえる。 |

| 小項目 | 実績 | 評点 | 点検評価 |
|----------------|--|-----------------|--|
| 中項目 | 政策: 学校教育の充実 施策: 次代を担う人づくりの推進 | 担当課: 南アルプス教育推進課 | |
| 小項目 | 実績 | 評点 | コメント |
| 少人数教育・特別支援教育事業 | 93,186千円(市単教員37人賃金) ・市単教職員の配置により、児童生徒の実態に応じたきめ細かな指導の充実を図ることにより、基礎学力の向上及び自ら考える力の育成を図った。また、1学級37人以上の小学校に市単教員を配置したり、複式学級の解消、特別支援教育推進のため障害やその状況に応じた支援員の配置を行った。 ・児童生徒の実態に応じたきめ細かな指導の充実を図るために、多人数学級・複式学級解消等のために7人、通常学級における特別支援のために26人、大規模校に養護教諭補助員として2人、小規模校2校に兼務する養護教諭補助員として1人、小規模校には配置されない事務職員として1人の計37人の支援員を配置した。(昨年度は33人) ・市内の小中学校において通常学級における特別支援を必要としている児童生徒が増加している。そのため、更なる増員が必要である。 | 4.2 | 成果は大きい。問題を抱えている生徒、児童にきめ細かい指導が実現している。 少人数教育、特別支援教育事業として多くの市単独で講師を配置しており、学校現場において児童生徒一人ひとりの違いに対応した指導を可能にし、本市学校教育の充実推進に大きな役割を果たしている。 |

| 中項目 | 政策: 学校教育の充実 施策: 生きる力を育む学校教育の推進 | 担当課: 教育総務課 | |
|--------------------|--|------------|---|
| 小項目 | 実績 | 評点 | 点検評価 |
| 教育委員会関係事務事業 | 1,431千円 ・教育委員会の円滑な運営を図り、教育行政の基本方針や施策について審議し、決議した。 ・市内小中学校22校の学校を訪問し学校長との意見交換、授業参観、給食試食、施設状況の視察を行った。 ・教育委員先進地県外視察研修(埼玉県春日部市粕壁小学校～国際理解教育、さいたま市つばさ小学校～電子黒板を用いた授業)を行った。その他研修会各種行事へ出席をした。 ・教育振興推進のため、その使命と責務に努めた。 | 3.8 | 学校訪問を通して、学校経営、運営の計画と具体的な展開について理解を深めることができた。 |
| 教育委員会事務局組織管理運営事務事業 | 11,993千円 ・教育委員会事務局組織に必要な事項を定め、所管事務を明確にし、教育行政事務の適正と効率的な運営を行った。 ・事務用機器、公用車、各種加盟団体への負担金などの支出があった。 ・事務の効率性を高め継続して経費の削減に努めていく必要がある。 | 3.8 | |

| 小項目 | 実績 | 評点 | 点検評価 |
|-----------------|--|-----|--|
| 小林愛則育英奨学会給付事務事業 | 700千円 ・小林愛則育英奨学金は、基金を基に将来社会の中核となる優秀な人材を育成することを目的とし給付事業を行っている。 ・市内の中学校を優秀な成績で卒業し大学進学を目指している高校生に、奨学金を給付する。 ・給付額は、年間一人10万円を1学年3名を限度とし3年間給付する。 平成21年度は7名に授与し、勉学の励みになっている。 | 3.8 | 奨学金の趣旨、目的に基づき、優秀な生徒に給付している。奨学生も明確な目標を持ち、着実に歩み続けている。 |
| 芦安育英奨学会貸与事務事業 | 960千円 ・芦安地区から高等学校等に通学するため、奨学金を希望する者に対して月額1万円、年間12万円を貸与する。 平成21年度貸与者は、8名。 | 2.8 | 県内一学区となった現在、その必要性は薄れてきている。 |
| 就学援助、就学奨励事業 | 45,604千円 (要保護児童生徒20名、準要保護児童生徒585名、特別支援教育就学奨励児童生徒30名) ・就学に困難な児童に対して、学用品費等を援助することにより義務教育の円滑化を図る。また、特別支援学級に通う児童に対して保護者の負担能力に応じ経済的負担を軽減する就学支援を行った。 ・対象児童生徒の保護者の経済的負担の軽減が図られた。 | 3.4 | |
| 学校図書館蔵書管理事業 | 5,687千円 ・学校図書館における蔵書管理を情報システムにより行い、市内全小中学校で蔵書の管理を効率的、体系的に行うとともに、学校間での蔵書の情報共有等の機能を活用することで、学校図書館の充実を図った。 | 3.2 | 情報システムにより学校間での蔵書検索や相互貸借も可能になり、児童生徒が広範囲から必要な資料を収集することができるようになっている。 |
| 就学時健診事業 | 1,397千円(健診児童数 747人) ・翌年度就学予定の児童に対して、健康診断等を行い、就学予定児童の心身の状況を把握して適正な就学指導を行った。 ・健診実施場所を統一化したが、一部知能検査の実施方法の統一化が図られていないので、統一化を検討し実施していく必要がある。 | 2.8 | 具体的に統一していく方策を考えるべき。 |
| 安全対策事業(防犯ブザー貸与) | 232千円 ・登下校時の安全対策として、市内小学校新生児に防犯ブザーを貸与した。(平成17年度で、小学校全員が保有することになった。) ・入学時に新1年生に900個を貸与することで、登下校時の安全管理を図ることができた。 ・中学生にも貸与の要望が上がってきている。安全管理の面から現状を把握する中で検討をしていく必要がある。 | 3.2 | 配布後の使用指導等が必要。児童の防犯意識向上のためにも統一した指導が必要。 子どもたちの登下校時の安全確保を図ることができた。 |

| 小項目 | 実績 | 評点 | 点検評価 |
|--------------------|--|-----|-----------------------------------|
| AED(自動体外式除細動器)配置事業 | 1,579千円 ・学校行事の中でいつ発生するかもしれない、心肺停止による事故への対応を図るため、市内小中学校22校にAEDを配備している。 ・夏季休業中の2日間(8月10～11日)で、市内小中学校の先生方を対象に普通救命講習会を実施し、AEDの使用方法等の周知を図った。 | 3.2 | 講習会等を実施する中で、器具の配備を行い万全を期している。 |
| 通学補助事業 | 1,385千円 ・遠距離通学をしている児童生徒の保護者に定期代を補助し、経済的な負担の軽減を行った。若草小学校(下今井地区1、2年生 30人) ・遠距離通学を行う児童のバス通学を認めることにより、交通事故や不審者等による事件がなく、安全安心な通学を行うことができた。 | 3 | |
| 学校教職員健康診断等委託事業 | 6,637千円 ・学校教職員の健康診断を行うことで、健康管理体制が充実できた。また、心臓検診を追加した。 (胃検診・結核健診・心臓検診・基本健診・健康相談) | 3.2 | 教職員の健康管理体制が充実し、早期発見、早期治療につながっている。 |
| 学校環境検査委託事業 | 1,733千円 ・学校において安全に過ごせる学習環境の整備と充実を図るため、室内空気中化学物質検査、ダニアレルギー測定検査を行った。(各校年1回) ・検査結果に対する各学校の対応状況について、教育委員会において指導等の対応ができる体制づくりが課題である。 | 2.8 | 前年度と同様の課題が残っている。解決に向けて善処を。 |
| 私立幼稚園就園奨励及び援助事業 | 16,696千円(20園 323名) ・幼稚園教育を奨励するため、私立幼稚園の設置者に対して入園料及び保育料の減免を行う場合、私立幼稚園就園奨励費を支給した。 ・保護者の経済的負担の軽減が図られた。 ・国の補助事業であるため、各自治体で実施しているが、補助率が1/3以内ということもあり自治体間で所得制限の基準も補助金額も差がある。本市は財政的な理由により所得基準も補助金も国の基準より少ない。 | 2.6 | 前年度と同様の課題が残っている。解決に向けて善処を。 |
| 学校管理事業(小学校関係) | 182,698千円 ・市内小学校15校の管理運営を行う。児童が安全に伸びやかに過ごせる学習環境の整備と充実を図ることができた。 ・市内15校の管理運営を行うことで、学習環境の整備と充実を図ることができた。(学校修繕料、管理備品の購入、光熱水費、委託料等) ・老朽化の進んでいる学校については、学習環境の整備のための管理費(修繕料)等の経費が必要になる。 | 3 | 各学校とも工夫し効果の高い管理運営を行っている。 |

| 小項目 | 実績 | 評点 | 点検評価 |
|-----------------|--|-----|---|
| 学校管理事業(中学校関係) | 93,235千円 ・市内、中学校7校の管理運営を行う。生徒が安全に伸びやかに過ごせる学習環境の整備と充実を図ることができた。 ・市内中学校7校の管理運営を行うことで、学習環境の整備と充実を図ることができた(学校修繕料、管理備品購入、光熱水費、委託料等) ・老朽化の進んでいる学校については、学習環境の整備のための管理費(修繕料)等の経費が必要になる。 | 3 | |
| 教育振興事業(小学校関係) | 88,297千円 ・市内小学校15校の振興運営を行う。特色ある学校教育づくり、総合的な学習充実、教育課程を実施することができた。 ・市内小学校15校の振興運営を行うことで、特色ある学校教育づくり、教育課程を実施することができた。(教材補助、各種検査料、教材備品購入、校外行事補助) ・平成23年度からの新学習指導要領の改訂に伴い教材備品等の整備が必要になる。 | 3.2 | 効果的な予算措置で児童の学習活動が意欲的に展開されている。 |
| 教育振興事業(中学校関係) | 81,107千円 ・市内中学校7校の振興運営を行う。特色ある学校教育づくり、総合的な学習充実、教育課程を実施することができた。 ・市内中学校7校の振興運営を行うことで、特色ある学校教育づくり、教育課程を実施することができた。(教材備品、各種検査料、教材備品購入、校外行事補助等) ・平成24年度からの新学習指導要領の改訂に伴い教材備品等の整備が必要になる。 | 3.2 | 効果的な予算措置で生徒の学習活動が意欲的に展開されている。 |
| 小中学校体育大会等参加補助事業 | 16,914千円 ・文化庁、体育部で参加する関東、全国大会に参加するための経費を補助することで、生徒に広くスポーツ実践の機会を与え、体力、技術の向上とスポーツ精神の高揚を図り心身ともに健康な生徒の育成ができた。 ・橿形中学校駅伝部が、男女とも全国大会出場するなど輝かしい成績を挙げることができた。また、様々な部活動において好成績を挙げることができた。 (補助件数45件) | 4 | 関東、全国大会出場という大きな目標を目指して取り組んでいる生徒たちの活動の成果への対応ができた。 今後の活躍に期待。 |
| 学校給食食材事業 | 396,510千円 ・児童生徒等に安心安全な食材をできるだけ安く購入する。 ・児童生徒が生涯にわたって健康で生き生きした生活が送れるように、また、児童生徒の一人一人が正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身に付けて自ら健康管理ができるよう学校給食を通して食育の推進に努めるとともに児童生徒への学校給食提供にあたり、地産地消の食材も取り入れながら安心安全な食材を安価で購入した。 | 3.2 | |

| 小項目 | 実績 | 評点 | 点検評価 |
|---------------------------|---|-----|--|
| 中項目 | 政策: 学校教育の充実 施策: 生きる力を育む学校教育の推進 | | 担当課: 南アルプス教育推進課 |
| 小項目 | 実績 | 評点 | 点検評価 |
| 外国語指導助手配置管理事業 | <p>34,441千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校に導入される「外国語活動の時間」の充実を図るため、市内の小学校の外国語活動の均質化を視点を外国語指導助手(ALT)の配置を見直し、市内22小中学校に再配置した。再配置後、ALTの勤務状況等の調査を行い各小中学校の状況やニーズを把握した。 ・小学校教員の外国語活動の指導力を高めるため、研修等を行い、小学校外国語活動について理解を深めることができた。 ・ALT8人のうち、1人がJET、1人が姉妹都市から、6人が委託契約によるALTとなっている。ALT雇用の形式について検討を重ね、小中学校のニーズを満たす人材の確保ができる民間委託に切り替えていくことに決定した。 ・新学習指導要領完全実施(小学校平成23年度、中学校平成24年度)を見据えて、より計画的に適正なALTの配置を進めていく必要がある。今年度は原則として小学校は週1日、中学校では学校規模により週3～5日ALTを活用した指導が行われた。 | 3.4 | <p>ALTの配置により、児童生徒の英語に親しむ活動が充実し、コミュニケーション能力の育成が図られた。</p> <p>平成23年度より小学校に導入される「外国語活動の時間」の充実推進のため、ALTの配置をより実効的に進めたい。</p> <p>また、民間委託へ切り替え学校現場の状況を把握し、ALTとの連携を密にして、適切な指導を行い効果的な英語学習を実現していく。</p> |
| 指定研究事業(学びの質を高める授業づくり推進事業) | <p>300千円(100千円×3校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス教育の推進及び学校教育の充実を図るため、学びの質を高める授業づくり推進事業として指定校3校(白根飯野小・豊小・若草中)を設け、南アルプス教育の方針に沿った授業づくりを推進した。 ・指定校は、習熟と暗記に傾斜した一斉授業の学習形態から、ペア学習やグループ学習を授業の中に取り入れ、子ども同士の自分の考えを表現するコミュニケーション機会を増やし、思考の多様性、人との関わり方・自ら考える力・生きる力を大切にしたい研究会を年間を通して実施した。また、その成果を公開授業研究会として、県内外の講師も招き評価をしていただきながら市内教職員に公開した。 ・今後も市内で指定を行い、学びの質を高める授業作り推進事業を推進していく。公開研究会については、市内の小中学校の連携を大切にし、異種校間の授業を先生方に見ていただき、広く情報交換を行っていく必要がある。 | 4 | <p>授業改善を中核に据えての研究指定校の授業づくりの研究・実践は、「生きる力」の育成の実現に向け、大きな成果を上げている。</p> <p>市内各学校への研究成果の拡大をどのように図るかが課題。</p> <p>また、県外研究会へも参加し、質の高い授業作りに努力している。</p> |

| 小項目 | 実績 | 評点 | 点検評価 |
|-----------------|---|-----|--|
| 地域ふれあい道徳教育推進事業 | <p>1,006千円</p> <p>・市内全小中学校を指定校とし、学校ごとに、特色ある道徳教育の推進及び地域の人々とのふれあいを中心とした道徳教育の取り組みを進め、本市の最重要課題の一つである「心の教育の充実」を図った。(50千円×22校)</p> <p>・子どもたちの保護者、祖父母に加えて、地域住民の道徳授業への参加、参観者が増えており、地域の人たちとふれあう道徳教育が行われるようになった。</p> <p>・取り組みの例としては、外部講師の方を授業に招き、命の尊さを学んだり、自然保護活動を長年行っている方から南アルプスの自然のすばらしさや自然を愛護する心を学んだり、障害のある方々とのふれあいから思いやりの心や福祉について考える貴重な機会となっている。</p> <p>・この事業を中学校区ごとに小学校と中学校、小学校同士が連携するものに発展させる事業として、県より「やまなし」心づくりの研究指定を受け、より地域に根ざした教育を実現を目指していきたい。</p> | 3.6 | <p>地域ぐるみで子どもたちの心の教育の充実を図るための事業であり、各校の実践を年度末に研究報告としてまとめ、事業の成果、反省点等の検討に生かしている。</p> <p>各学校、各地域の特色を生かした継続的事業で着実に成果を上げている。</p> <p>しかし、各学校での取り組み内容、方法には多少温度差もある。マンネリ化せず意欲的な取り組みを期待。</p> |
| 「総合的な学習の時間」推進事業 | <p>小学校 3,277千円(200千円+5千円×学級数)</p> <p>中学校 2,837千円(300千円+10千円×学級数)</p> <p>・各学校でテーマに基づきながら、生活や学びの中から個々にテーマを設置し、地域や校外へ出て取材や体験をし、得られた内容を地域や社会、自らの生活に還元した。</p> <p>・地域の歴史・自然・文化を大切にしながら南アルプス市を題材とした教材開発を行い、地域の人材の活用や教育委員会と連携した授業作りを行うことができた。平成20年度には、市内の小学校において、地域の文化財を取り入れた授業の取り組みが、県の最優秀賞表彰を受賞することができた。</p> <p>・今後も地域に根ざした教材開発を行い、子どもたちの体験活動を重視した総合的な学習の時間の支援を行っていききたい。</p> | 3.4 | <p>地域に根ざした教育の具現化を図るため、地域教材を積極的に教材化し、体験活動を重視する中で特色ある学校づくりを進めている。</p> <p>クラス単位での補助金体制になり、活動が活発になった。</p> <p>創意工夫のある授業実践がある一方、マンネリ化した教材での取り組みも見られる。自ら学ぶ意欲を育てる授業づくりのためにも、意欲的な取り組みを期待。</p> |
| 登山体験事業 | <p>300千円(100千円×3校)</p> <p>・新学習指導要領の改訂により、今後の教育活動において、自然体験や社会体験などの体験活動のさらなる充実が求められている。</p> <p>・芦安小学校では、「人間性豊かな児童の育成を目指して」をねらいにした夜叉神峠全校登山・芦安中学校では、「感性を磨き、表現力の自立を」をねらいにした仙丈ヶ岳全校登山。櫛形西小学校では、伊奈ヶ湖周辺の自然を生かした全学年による自然体験活動を行った。(学校林への植樹・下草刈り、伊奈ヶ湖周辺の清掃、どんぐり拾い、白鳥のえさ集め等)</p> <p>・自然体験活動を通して、世界遺産登録をめざす南アルプスの自然のすばらしさを知り、豊かな感性を育て、さらに仲間と体験を共有することによって相互の信頼関係を構築していく取り組みを実施した。南アルプスの自然を舞台にした各種自然体験活動は、人間性やふるさとを愛する心を育む大切な取り組みである。</p> | 4 | <p>他者、自然、環境等との関わりを重視した自然体験活動は、人間性やふるさとを愛する心を育成する教育の一つとして成果を上げている。</p> <p>1年次の事業であるが来年度以降につながる事業であり、目的も明確であることから今後の進展を期待。</p> <p>自然、環境保護の意欲や郷土愛を育てる上で大きな成果を上げている。更なる成果の積み上げを期待する。</p> |

| 小項目 | 実績 | 評点 | 点検評価 |
|--|--|-----|---|
| 一般教育 推進事業 (市内教職 員研修事 業) | 100千円 ・南アルプス市の学校教育の推進のため、市内の教職員の指導力向上。 ・教育における見識を深めるために時事的な話題や特色ある学校づくりのための講演会を実施した(参加者188人)。 ・教育系コンピューターの整備事業に伴い、市内の教職員の技術の向上のための研修(HP,Word,Ex)を実施した(45人)。 ・市内新任教職員を対象に市の自然。 ・文化財などを広く知るための市内研修を夏季休業中に実施した(33人)。 ・小学校外国語教育実施に伴う英語研修を実施した(5回335人)。 ・市の指定研究事業の研究発表会と教育講演会を結びつける取組を行い、学校教育の市の方向性を広く周知する研修となった。 | 3.6 | 教職員の能力や資質の向上を図るための研修会等の開催は、有意義であり、効果も大きい。 学習指導要領改訂に伴って実施した研修会は、特に有効で効果的である。本市の学びの質を高める授業づくりの研究発表会と教育講演会は教職員の資質向上を図る上で有意義であり、また重要である。 |
| 南アルプ ス市教育 支援セン ター事業 (いじめ不 登校未然 防止推進 事業) | 6,028千円 ・平成18年度より教育支援センターを開設した。適応指導教室では、学校復帰を目指し、家庭と連絡を取りながら支援を行った。特別支援教育相談室では、就学相談や学校や関係機関との連携を行った。教育相談では、教育全般の相談を受けることにより家庭や学校、関係機関との連携を図った。 ・センターの知名度や支援を必要としている人が増大しているため入室者や相談者が大幅に増加した(入級者数21人 31人 25人、相談件数608件 943件 969件)。 ・家庭、学校、関係機関との連携がより密になってきており、指導の成果として、学校へ復帰した児童生徒が7人、高校へ進学できた生徒は7人となっている。 ・入室者や相談者が増えたことにより支援の体制が手薄になる可能性があった。特に適応指導教室では、子どもたちの勉強スペースが足りなくなったり、ボランティアを依頼したりと支援体制の充実が課題となった(補正予算により1月から3月まで支援センター教育指導員を1名採用し、対応した)。 1,210千円 ・南アルプス市の児童生徒が安心して学びに挑戦できるようにするため、いじめ・不登校の未然防止の視点に立ち、教職員が客観的に学級の状態を把握できるQ-Uテストを実施した。 ・市内の5校を指定。教育講演会を実施し、広く市内に生徒指導・学級経営についての研修を行った。指定校では児童生徒にQ-Uテストを実施し、結果を生かした授業研究会を行った。 ・平成20年度の事業開始以来、南アルプス市の不登校者数は減少に転じることができ、地域に開かれ信頼される学校づくりにつながっている。 | 4.4 | 教育支援センター事業は大きな成果を上げている。 支援体制の充実という面では、入室者、相談者との関係もあり、流動的な側面も多々あると思われるが、教育指導員の配置についてはできる限りの対応していくことが必要。 支援センターを必要とする人は今後も増加すると思われる。その対応は今後とも続けていかなければならない。 支援を必要としている児童、生徒、家庭の多様なニーズに最大限の努力で応え、大きな成果を上げてきている。また、教職員の相談にもよく応えている。今後、教育支援の需要の増大が予想され、人的環境を含めた整備充実が望まれる。 |

| 小項目 | 実績 | 評点 | 点検評価 |
|---|---|-----|--|
| 地域ぐるみの学校安全体制整備事業(スクールガードリーダー・学校応援団に関すること) | <p>585千円</p> <p>・学校安全管理の一層の充実を図ることを目的に市内に4名のスクールガードリーダーの委嘱を行い、学校巡回指導・学校施設整備の点検・放課後における安全パトロール・通学路の安全点検・児童への安全指導を行った。</p> <p>・スクールガードリーダーと各地区の「子を守る会」「孫を守る会」等のスクールガードが連携しながら、効果的な学校・地域の安全管理を図ることができている。(スクールガード及び自主防犯ボランティア登録者数 H21年度2169人)</p> <p>1,123千円</p> <p>・学校の教育活動への支援を行うために南アルプス市学校応援団実行委員会を組織し、また、市内の各中学校区において地区代表・コーディネーターを中心に学校応援団(地区教育協議会)を組織した。</p> <p>・また、それぞれの地区において地区内各学校の教育的ニーズに対応できるボランティアを募集し、ボランティア人材バンクを整備した。(ボランティア登録者数 H21年度末214人)</p> | 4.2 | <p>地域全体で地域の子どもを育てる活動として着実に歩み続け、大きな成果を上げている。</p> <p>地域ごとにバラつきはあるがボランティア内容は充実している。</p> <p>「子どもを守る会」等地域ぐるみでの防犯活動が定着し、着実に成果を上げている。市内7地区にそれぞれ学校応援団が組織された。今後、学校支援ボランティアの活動に期待が持てる。</p> |

中項目 政策:学校教育の充実

施策:学校施設の整備充実

担当課:教育総務課

| 小項目 | 実績 | 評点 | コメント |
|-------------------|--|-----|------|
| 小学校施設整備事業(単独) | <p>31,908千円</p> <p>小学校(15校)の既存する施設及び設備について、耐震補強及び改修を最優先に実施する中で、経年劣化等に伴う施設改修や設備更新を行っており、学校間の格差を是正し、学校施設の耐久性を計画的に向上することができた。</p> <p>(H22に計画する改修事業については、H21きめ細かな臨時交付金事業に前倒して計上し、H22に明許繰越し事業として実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小笠原小床改修工事 ・小笠原、落合小電話機更新工事 ・白根百田小プールサイド改修工事 ・小学校図書室空調設備工事 ・南湖小教育系パソコン機器購入 | 3.4 | |
| まちづくり交付金小学校施設整備事業 | <p>235,351千円</p> <p>白根飯野小学校屋内運動場地震改築事業 昭和50年3月に建設し築後35年を経過する。 平成16年の耐震診断結果により耐震強度Is値0.11であり、耐震強度が著しく不足していることから屋内運動場の地震改築を平成20・21年度の継続事業として実施している。 (鉄骨造平屋建、ガルバリウム葺、建築面積 998.96㎡)</p> | 3.6 | |

| 小項目 | 実績 | 評点 | 点検評価 |
|--------------------------------|--|-----|------|
| 生活対策 臨時交付金 小学校施設 整備事業 | 51,235千円 <u>H20から継続費繰越</u> 平成20年度経済対策事業である『地域活性化・生活対策臨時交付金』により、安心・安全な暮らしの実現及び防犯・防災強化を図るため、教育施設の耐震化対策事業等施設整備を実施している。 ・南湖小屋内運動場地震改築関連道路付替工事 ・白根源小屋上防水改修工事 ・八田小正門、西門門扉設置工事 ・小笠原小屋根防水改修工事 ・白根源小グラウンド東面改修工事 ・八田小、小笠原小遊具改修工事 | 3.6 | |
| 公共投資 臨時交付金 小学校施設 整備事業 | 463,681千円 <u>H22への明許繰越:55%</u> 平成21年度経済対策事業である『経済危機対策・公共投資臨時交付金』により、安心・安全な暮らしの実現及び防犯・防災強化を図るため、教育施設の耐震化対策事業等施設整備を実施している。 ・白根東小屋内運動場改築工事 ・南湖小屋内運動場改築工事 ・八田小、若草小太陽光発電設備工事 ・南湖小校内LAN改修工事 ・小笠原小床改修工事 ・八田小図書室空調設備工事 ・若草小給水管、揚水管改修工事 ・学校ICT環境整備機器購入 | 3.6 | |
| 中学校施設 整備事業(単独) | 13,268千円 中学校(7校)の既存する施設及び設備について、耐震補強及び改修を最優先に実施する中で、経年劣化等に伴う施設改修や設備更新を行っており、学校間の格差を是正し、学校施設の耐久性を計画的に向上することができた。 (H22に計画する改修事業については、H21きめ細かな臨時交付金事業に前倒して計上し、H22に明許繰越し事業として実施) ・若草中防球ネット嵩上げ改修工事 ・白根御勅使中テニスコート補修工事 ・白根巨摩、御勅使中校内LAN改修工事 | 3.4 | |
| 公共投資 臨時交付金 中学校施設 整備事業 | 112,901千円 <u>H22への明許繰越:75%</u> 平成21年度経済対策事業である『経済危機対策・公共投資臨時交付金』により、安心・安全な暮らしの実現及び防犯・防災強化を図るため、教育施設の耐震化対策事業等施設整備を実施している。 ・八田中、若草中太陽光発電システム設置工事 ・甲西中学校バックネット、夜間照明移設工事 ・芦安中、八田中図書室空調設備工事 ・八田中電話設備工事 | 3.4 | |

| 小項目 | 実績 | 評点 | 点検評価 |
|--------------|--|-----|------|
| 学校給食施設整備事業 | <p>4,776千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校給食施設の備品において老朽化が顕著となっているため、緊急性を優先して、単独校・給食センターの備品を計画的に整備・充実した。 ・小笠原小 ガス式ティルティングパン、櫛形北小 ガス式立体炊飯器を購入し整備した。 ・今後随時整備をしていく必要がある。・今後も引き続き食中毒防止に努めていく。 <p>21,494千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・また、経済危機対策臨時交付金を活用し、22年度の備品を前倒しして整備した。 ・豊小、大明小 ステンレス回転釜 豊小、櫛形西小 冷凍冷蔵庫 大明小 牛乳保冷庫他 | 3.2 | |
| 学校給食施設維持管理事業 | <p>97,037千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター3箇所(白根八田・若草・芦安) 自校式8箇所(小笠原小・櫛形北小・櫛形西小・豊小・落合小・甲西中大明小・南湖小・櫛形中)の維持管理費 ・学校給食の質の維持及び向上を図るため施設設備の維持管理に努めた。また、食中毒を防止するため施設や職員の衛生管理に万全を期した。 | 3 | |

| 中項目 | 政策: 青少年の健全育成 施策: 健全育成支援体制の強化充実 | 担当課: 教育総務課 | |
|------------------|---|------------|---|
| 小項目 | 実績 | 評点 | 点検評価 |
| 芦安南アルプスチロル学園運営事業 | 17,151千円 芦安地区の子どもたちと都市の子どもたちの交流事業として、また過疎地域の活性化のため小学校4年生から中学校3年生までの寮生7名(H21年度、うち1名中途退園)を受け入れている事業。 ハイキングや登山体験のほか、四季折々の地域の祭りへの参加や料理体験、など毎月イベントを実施。 芦安小中学校の児童生徒数の維持など、その役割は小さくなってきており、今後のあり方は課題。 正職員1名、臨時職員4名、パート2名。 ・歳入: 入園負担金、学園使用料等3,965千円 ・歳出: 臨時職賃金や賄い材料費等17,151千円 | 2.8 | 事業の趣旨、目的及び地域の考え方を総合的に検討し、今後の方向性を出していく必要がある。 |

| 中項目 | 政策: 青少年の健全育成 施策: 健全育成支援体制の強化充実 | 担当課: 生涯学習課 | |
|--------------|--|------------|--|
| 小項目 | 実績 | 評点 | 点検評価 |
| 青少年健全育成推進事業 | 1,047千円 ・青少年を有害な環境から守るために、青少年育成南アルプス市民会議と協力し市内有害図書自販機・ゲームセンターの現地調査と書店の指導等を行い環境浄化に取り組んだ。また、チラシや広報誌を全戸配布し、家庭や地域に青少年の心の成長・地域活動支援や非行防止を呼びかけ、青少年の健全育成の推進に取り組んだ。 ・八田地区に設置されていた有害自販機1台は撤去されたが、未だ白根、若草地区に9台設置されている。今後も市民の協力を得る中で撤去に向けて取り組んで行く。 青少年の非行問題に取り組む強調月間チラシ…7月上旬 夏の青少年生活指導要項…7月中旬 冬の青少年生活指導要項…12月中旬 広報誌「南アルプスの青少年」…3月中旬 「家庭の日」「青少年を育む日」 標語の部最優秀作品のチラシ…3月中旬全戸配布 | 3.4 | 有害図書自動販売機の撤去に向けての成果が具体的に現れている。今後とも関係者、関係機関と連携を密にする中で、撤去に向けての取り組みを継続。 地域、学校、行政の連携で青少年にとって安全な環境づくりを行っている。 地道な活動が実を結んで有害図書等自販機が撤去されたことは成果である。 |
| ジュニアリーダー養成事業 | 575千円 ・学区内を超えた仲間と、団体活動や集団生活を通して自立・協同・奉仕の精神を体験的に学習し、ふだん学校や家庭では得られない経験を体得し、地域の中で指導力・行動力を持つ頼られるジュニアリーダーの養成と確保を図った。 研修場所: 山梨県立八ヶ岳少年自然の家(1泊2日) 1班 8月11日(火)～12日(水) 2班 8月18日(火)～19日(水) 参加児童: 市内小学6年生 129名 リ-ダ- :ジュニアリーダー養成過程を終了した中学1・2年生45名 | 3.4 | 参加児童の多くが参加して良かったと言っている。 リーダー養成として研修内容の見直しも必要。 |

| 小項目 | 実績 | 評点 | 点検評価 |
|------------------|---|-----|---|
| 各種子ども祭り開催事業 | 1,482千円 ・祭りをおして遊びの中で、異年齢の仲間や地域の大人との交流や親子の絆を深めるとともに、地域の歴史文化や芸能を伝承することを目的に子ども祭りを開催した。 甲西子どもまつり7月28日(火)参加者1,700人 芦安子ども夏祭り7月19日(日)参加者150人 若草三世代ふれあい祭り講習会12月1日(火)参加者30人 | 3.2 | 祭りを通して異年齢との交流もあり、子どもたちが開催を楽しみにしている。 |
| 子どもクラブ親睦球技大会開催事業 | 395千円 ・スポーツを通して、健全な体と精神を養うとともに、子どもクラブ員相互の親睦を深めることができた。また、中学生が小学生の面倒を見たりアドバイスすることで指導力や協調性を学ぶことができた。 開催日:平成21年8月1日(土)~2日(日) 男子:ソフトボール(19チーム) 女子:ミニソフトバレーボール(18チーム) | 3 | 各地区の事情等もあると思われるが、多くのチームの参加を期待したい。地域ごとに事業の捉え方に温度差がある。事業の目的の理解を図り、多数のチームの参加を望みたい。 |
| 放課後子ども教室推進事業 | 988千円 ・大明小学校の児童を対象に、大師公民館を安全・安心な子どもの居場所作りの活動拠点とし、毎週水曜日に地域の方々の協力を得て放課後子ども教室を実施している。異年齢の子どもたちが自由の遊んだり、スポーツや工作、体験活動等を通じ友達を増やし、また、地域の大人と交流することにより、人づき合いや自然にルールを身につける力を育てている。 ・今後も地域が一体となって、子どもたちを見守ることのできる環境づくりを推進する。 H21年度47回開催 1回あたり平均30名の参加実績 | 3.2 | 公民館運営とのかかわりもあり、今後の進展を期待する。 |
| 成人式挙行事業 | 2,593千円 ・次代を担う新成人の門出を祝福するとともに、祝い、励まし、新成人たちにも成人としての自覚と行動をあらためて意識する機会として成人式を挙行了した。 実施日:平成22年1月10日(日) 会場:桃源文化会館 成人者:860名(参加者733名) | 3 | 成人式のあり方については、検討を要する。 |

| 小項目 | 実績 | 評点 | 点検評価 |
|-----------------|--|-----|---|
| 青少年健全育成推進団体補助事業 | 5,224千円 ・次代を担う青少年の健全育成を図るために、多様化する青少年問題を考え様々な活動に取り組んでいる諸団体に対し補助を行った。 補助金交付団体 ・青少年育成南アルプス市民会議180千円 ・6地区青少年育成地区民会議4,588千円 ・市子どもクラブ指導者連絡協議会137千円 ・南アルプス警察署管内少年補導員連絡協議会319千円 | 3.2 | 各地区育成会を中心とした取り組みは盛んだが、合併前からの活動がそのまま継続されている場合も見受けられ、社会の実情に合わせて事業の見直しも必要。 |

中項目

政策: 青少年の健全育成

施策: 健全育成支援体制の強化充実(交流活動の推進) 担当課: 生涯学習課

| 小項目 | 実績 | 評点 | 点検評価 |
|---------------------|--|-----|---------------------|
| 国内姉妹都市交流事業(石川県穴水町) | 213千円 ・友好姉妹都市である石川県穴水町との交流を図るため、穴水町の児童の本市受入れを行なった。 受入れ期間 3泊4日 受入れ児童数 20人 | 3.4 | 訪問団員或いは訪問先との交流を深めた。 |
| 国内姉妹都市交流事業(北海道津別町) | 1,161千円 ・友好姉妹都市である北海道津別町との交流を図るため、市内の児童を連れて津別町を訪問した。 訪問期間 2泊3日 訪問児童数 20人 | 3.4 | 訪問団員或いは訪問先との交流を深めた。 |
| 国内姉妹都市交流事業(東京都小笠原村) | 224千円 ・友好姉妹都市である東京都小笠原村との交流を図るため、小笠原村の生徒の本市受入れを行なった。 受入れ期間 3泊4日 受入れ生徒数 13人 | 3.4 | 訪問団員或いは訪問先との交流を深めた。 |

| | | | |
|--------------|--|-----------|------|
| 中項目 | 政策:文化づくりの推進 施策:地域資源を活かした地域文化の振興 | 担当課:生涯学習課 | |
| 小項目 | 実績 | 評点 | 点検評価 |
| 文化振興 推進事業 | <p>8,484千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の芸術文化の意識の高揚と地域文化の充実と拡大を図るため市民文化祭及び各種事業を開催した。 ・文化講演会(演者:金美齡 参加者252人)、ふるさと再見ガイドツアー、書道展・囲碁・将棋大会等。 ・市文化協会主催の市民文化祭(5地区開催)、文化講演会等の開催並びに事務運営費に対して補助金を交付した。(文化協会会員 2,451人) ・市文化協会に所属する専門部(120部程度)の活動費に対して補助金を交付した。 <p>補助金は市文化協会に一括補助し、専門部に分配する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育団体(太鼓保存会・小笠原長清公顕彰会等)へ補助金を交付し、地域の文化振興の推進を図った。 <p>* 社会教育団体 H21年度末47団体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陶芸施設(八田・甲西)及び太鼓の維持管理に努め、市民の自主的な文化・生涯学習活動が行える環境を整えた。 | 3.2 | |

| | | | |
|-------------|---|----------|--|
| 中項目 | 政策:文化づくりの推進 施策:地域資源を活かした地域文化の振興 | 担当課:文化財課 | |
| 小項目 | 実績 | 評点 | 点検評価 |
| 文化財保 護事業 | <p>6,011千円</p> <p>豊かな自然とともに貴重な文化遺産を後世に残すため、市内の指定文化財の保護を行った。また、学校教育や生涯教育と連携しながら文化財の活用及び広報誌等を通じて啓発事業を実施した。</p> <p>実施事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国史跡 将棋頭・石積出、県指定物見塚古墳の維持管理(草刈等) ・県指定天然記念物 鏡中条ごよう松・宝珠寺の松の害虫防除事業補助 ・文化財防火デーの一環として、隆円寺(若草地区)、長谷寺(八田地区)での防災訓練 ・指定文化財管理報償金の交付(131件) ・長谷寺本堂(国指定)防災設備点検委託補助 ・国指定文化財三恵の大ケヤキに薬剤散布及び周辺整備 ・仏像等悉皆調査(継続事業)21年度 甲西地区 ・教育普及事業実施 <ul style="list-style-type: none"> 実施事業175事業(前年度137事業) 参加人数7,871人(前年度7,184人) 特に学校関連事業回数が増えている。 ・普及啓発事業実施 <ul style="list-style-type: none"> 広報南アルプス掲載9回 南アルプスふるさとメール掲載11回 CATV放映2回 南アルプス市フルーツ山麓フェスティバル文化財ブースの出展 ・インターシップ受け入れ事業実施 <ul style="list-style-type: none"> 大学生4名 中校生2名 | 3.4 | <p>学校関連事業としての出前講座(授業)は、児童・生徒に地域の文化財や歴史について興味や関心を持たせることなど、その成果は大きい。今後も継続したい。</p> <p>文化財課の学校への出前講座は、教材、内容、スタイル等豊富で、児童、生徒に好評である。郷土を知り、愛する心を育てる上での役割を期待している。</p> |

| 小項目 | 実績 | 評点 | 点検評価 |
|-------------|--|-----|----------------------------------|
| 埋蔵文化財調査事業 | <p>24,541千円</p> <p>埋蔵文化財は、郷土がどのように歴史をたどって成り立っているかを知る重要な手がかりとなる。本市の埋蔵文化財についても同様に、重要であり発掘調査と保存に努めている。</p> <p>実施事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・史跡の保全、公開、活用のため、御勅使川旧堤防用地取得(21年度は面積3,543㎡の内1,735㎡を取得) ・発掘調査事業:市道建設に伴う市道下市之瀬上宮地線 ・埋蔵文化財調査及び照会事業:遺跡有無等の照会626件(前年度576件)、試掘確認調査実施32件(前年度29件)、工事立会実施61件(前年度81件)、本調査実施1件(前年度1件) ・体験学習事業:史跡めぐり、土器造り、昔の暮らし体験、火起し体験等 ・遺跡説明板設置事業:御勅使川旧堤防(将棋頭・石積出)、 ・柵形堤防の発掘調査および報告書の刊行 ・埋蔵文化財等広報資料作成事業:遺跡で散歩、戦国時代の史跡を歩く(改訂版)、堤の原風景(改訂版)の刊行 | 3.4 | |
| 埋蔵文化財調査受託事業 | <p>693千円</p> <p>埋蔵文化財の調査・記録保存</p> <p>実施事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私立小学校建設の伴う道路拡幅部分の発掘調査(八田地区) | 2.8 | |
| 文化財調査事務所管理費 | <p>9,677千円</p> <p>文化財調査事務所は、発掘された出土品を保管あるいは展示し、また、発掘調査された遺跡の報告書作成及び出土品の整理を目的としている。ふるさと文化伝承館については平成21年6月に開館し、地域の歴史、文化遺産や資源情報等を収集保管し整理研究しその展示や体験学習などの教育普及活動の役割と文化施策の中核となる施設として活動している。</p> <p>実施事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと文化伝承館の維持管理 ・文化財の公開展示(鋳物師屋遺跡出土品などの公開展示) ・体験学習(常時) ・古代物づくり教室の開催 ・伝承館で夏まつり(縄文体験を中心としたまつりの実施) ・音色コンサート(2回) ・エントランスでの企画展示(2回実施) ・入館者数 5,276人(6月～3月) ・甲西調査事務所の維持管理事業(継続) | 3.2 | 常時一般公開したことにより、文化財の存在が市民にアピールされた。 |

| 小項目 | 実績 | 評点 | 点検評価 |
|---------------|--|-----|--------------------------------|
| 安藤家住宅管理事業 | 6,565千円 平成20年4月1日より保存修復を完了した「安藤家住宅」が県から南アルプス市に譲与され、管理運営を行っている。 実施事業 ・安藤家一般公開事業:観覧者数6,361人 観覧料他1,009千円 ・展示企画事業:端午の節句飾り展、安藤家秋祭り等7件 ・各種催事事業:読み聞かせ、紅葉ライトアップ等8件 ・安藤家住宅総合調査事業 ・安藤家の維持管理事業 | 3.4 | 指定文化財の保持、保護のために地域住民との連携を図っていく。 |
| 経済危機対策臨時交付金事業 | 5,000千円 指定文化財の保存修復補助事業 実施事業 ・市指定文化財江原浅間神社本殿修復事業の補助 | 2.8 | |

中項目

政策:文化づくりの推進
施策:芸術・文化施設の充実

担当課:生涯学習課

| 小項目 | 実績 | 評点 | 点検評価 |
|--------------|--|----|--|
| 桃源文化会館維持管理事業 | 71,758千円 ・市内の芸術文化の拠点施設である桃源文化会館の施設維持管理及び事業運営の推進を図り、市民が充実した文化活動が行なえるように努めた。 ・指定管理委託料19,668千円 ・人件費7人分補助37,498千円 ・ホール連結椅子修繕・噴水用水中ポンプ修繕・放送設備等劣化調査の実施 ・舞台照明設備改修工事、パイプオルガンオーバーホール事業の調査実施 H21年度利用者数 85,487人 | 3 | 芸術文化の拠点として市民ニーズにも対応できる企画運営を行っていくとともに、人件費等必要経費の見直しを進める。 |

中項目

政策:文化づくりの推進
施策:芸術・文化施設の充実

担当課:市立美術館

| 小項目 | 実績 | 評点 | 点検評価 |
|---------|--|----|------------------------------------|
| 美術館運営事業 | 30,434千円 ・春仙美術館 24,155千円 ・白根桃源美術館 6,279千円 美術館の環境を整備し、来館者が気持ちよく作品や施設(庭等含む)を観覧できるようにする。 また、収蔵作品がよい状態で保管ができるように維持管理を行う。 | 3 | 入館者数が低迷している現状を打破するための企画運営が求められている。 |

| 小項目 | 実績 | 評点 | 点検評価 |
|----------|--|-----|------------------------------------|
| 美術館常設展事業 | <p>6,648千円</p> <p>春仙美術館 名取春仙の作品を中心に、同時代に活躍した作家や現代作家、山梨に縁のある作家の展示を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展覧会日数:235日間 ・入館者数:3,113人 ・入館料:204,750円 ・春仙美術館主催事業版画講座2日間で16名 <p>白根桃源美術館 郷土作家を中心に展示を行う、付属展示室は市民ギャラリーとして貸出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展覧会日数:269日間 ・入館者数:2,091人 ・入館料:188,760円 ・付属展示室貸出し日数:114日間 ・入館者数:1,993人 | 3.2 | 入館者数が低迷している現状を打破するための企画運営が求められている。 |
| 美術館企画展事業 | <p>11,173千円</p> <p>多くの市民が優れた作品を鑑賞できるように企画展を開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春仙美術館企画展事業「世界を翔ける版画家 河内成幸展」 開催日数:39日間 入館者数:2,211人 入館料:187,100円 美術講演会入館者数:155人 | 3.2 | 広く市民に鑑賞してもらえようPR活動を積極的に行う。 |

中項目 政策：スポーツレクリエーションの振興
 施策：スポーツレクリエーション活動の推進

担当課：生涯学習課

| 小項目 | 実績 | 評点 | 点検評価 |
|---|--|-----|---|
| 自主活動 団体支援 事業 (南アルプ ス市体育 協会補助) | 75,656千円 ・南アルプス市の体育・スポーツの普及発展並びに市民の健康増進、体力向上を図っていく中心的な役割を持つ南アルプス市体育協会に、事業・運営・人件費の補助を行った。同協会も経費節減に努力している。 ・運営費補助5,151千円(事務機器賃借、消耗品、各種手数料) ・事業費補助16,839千円(市民体育祭、スイミングフェスティバル、チビリンピック等) 事業費対前年 701(事業経費削減等による経費削減) ・人件費補助53,667千円(事務局長1名、職員9名) 人件費対前年 621(育児休業代替) | 3.2 | |
| 自主活動 団体支援 事業 (県外ス ポーツ大 会出場費 補助) | 1,186千円 ・県外スポーツ大会に出場する南アルプス市体育協会加盟の個人・団体に対し、交付要綱に基づき補助をする。 ・平成20年度に要綱を改正し(1/3補助を1/4補助に減額、予選免除競技には支給しない等)により交付額の圧縮を図っている。 補助金交付件数 H19年度 29件 H20年度 13件 H21年度 17件 | 3 | |
| 体育指導 委員活動 事業 | 9,346千円 ・スポーツ振興法で規定されている公的な社会体育指導者である体育指導委員72名を委嘱し、誰もが気軽に参加できる軽スポーツ(スポレック)の普及を図るとともに、ウォークラリー・スポーツラリー・ドッジボール大会等を開催し、市民の健康増進・体力向上の一役を担った。自主事業(高齢者を対象とした健康教室)も含めて活発な活動を展開している。 ・スポレック普及教室開催回数24回 ・各種大会参加者数ウォークラリー約400人、スポーツラリー300人、ドッジボール200人 ・健康教室16回 | 3.6 | 体育指導委員の活動は、市民の健康増進、体力向上を図ることと併せて、市民の心のふれあいという面でも成果を上げている。 また、市民スポーツの活性化とともに、各企画事業へのリピーターも多い。 |
| スポーツイ ベント開催 事業(桃源 郷マラソン 大会) | 15,587千円 ・県内外より約6,000人の市民ランナー参加により第7回桃源郷マラソン大会を開催した。マラソンブームと事務局の努力により微増ではあるが参加者が増えている。現状の組織体制を維持しながら、限られた予算内で参加者を増やしている努力は評価できる。 補助金 H20年度 16,635 H21年度 15,587 1,048 削減。協賛企業の増加等による自主財源確保により補助金が削減できた。 | 3.4 | |

| 小項目 | 実績 | 評点 | 点検評価 |
|-----------------------------|--|-----|---|
| スポーツイベント開催事業(市小中学校ホッケー交流大会) | 3,409千円 ・市のスポーツでもあるホッケー競技の普及拡大及び技術力の向上を目指し、年間を通してコーチを派遣している。小学生交流大会を開催し、男女各優勝チームは滋賀県で行われた全国大会に出場した。市内の小中学校にホッケーの普及に努めているが、なかなか拡大までに至っていない状況である。 コーチ派遣状況:白根地区4小学校延べ 127時間、同2中学校延べ508時間(新型インフルエンザの影響により時間数が減少となった。小32%、中73%の実施率) | 3 | 小学生交流大会を契機として、中学、高校、大学、社会人として活躍している選手も多く、この事業の持つ意義は大きい。 普及、拡大、浸透を図るにあたっては、生徒数の減少などの問題があり大変だが、市全体に広げる工夫を継続して取り組む必要がある。 特定の競技に関心が集まる中、小学生時にホッケーを体験できることは、スポーツの視野を広げる上でその意義は大きい。 |
| スポーツ活動活性化事業(各種スポーツ教室開催) | 7,573千円 ・年2期に分け幼児から高齢者までの初心者を対象に、体力向上・健康増進・生きがい作りを目的に各種スポーツ教室を開催した。また、夏季(スイミング)冬季(スキー)の教室も開催し、14種目・延べ参加者3,000名となった。今後も種目を精査しながら市民の要望に応じていく。 | 3.2 | |

中項目

政策:スポーツレクリエーションの振興
施策:スポーツレクリエーション施設の充実

担当課:生涯学習課

| 小項目 | 実績 | 評点 | 点検評価 |
|-------------------------|---|----|------|
| 体育施設維持管理事業(指定管理に伴う委託事業) | 41,950千円 ・白根B&G海洋センター(フィッツスポーツクラブ) 甲西市民総合グラウンド他1(トラベツスポーツクラブ) 櫛形総合体育館他10(南アルプス市体育協会)の社会体育施設の管理業務を委託した。 各体育施設指定管理費用 白根B&G海洋センター25,000千円(フィッツスポーツクラブ)、甲西市民総合グラウンド他1施設2,800千円(トラベツスポーツクラブ)、櫛形総合体育館他10施設14,150千円(南アルプス市体育協会) | 3 | |
| 体育施設維持管理事業(経常的な維持・修繕) | 3,682千円 ・主な修繕として、白根B&G海洋センタープール内塩ビシート穴補修(462千円)・櫛形テニスコート内給水管漏水修繕(391千円)・若草体育館床修繕(735千円)・白根御勅使中学夜間照明安定器修理(390千円)・甲西体育センター排水設備修繕(332千円)・他13箇所。 ・老朽化が進んでいるため、早めの施しが必要となるので定期的に施設の点検・利用者の要望(苦情)等を反映していきたい。 | 3 | |